

## 美しい熊本づくり運動

## 標語入賞決まる

審査した結果、次のとおり決まりました。県ではこれを広報誌、パンフレットなどに随時使っていくことにしています。

一席 一人一粒 百七十万の花が咲く  
熊本市東町 長瀬 恭祐

二席 言わせましょう ああ熊本は美しい  
熊本市健軍町 中村 ヤエ

三席 庭の美化 一歩広げて道路まで  
熊本市新生町 松下 文子

佳作 しあわせは 自然を守る心から  
住む人の 心がわかる街の美化  
美しい熊本 かけ声よりも心がけ  
肥後じまん 藍より青き空と水  
ちり一つ ママが拾って子が拾い  
自然を守れば 自然が守る  
さあ植えよう 緑いっぱい花いっぱい(熊本市 横田一男)  
みんなの手で 子孫に残そうこの自然(御船町 三牧章優)  
大きな手 小さな手 みんなで育てよ 緑の郷土(坂本村 上野清)  
年寄りで 肥後路を 花のみちしるべ(津奈木町 山崎直次郎)



▲ 標語の審査風景

番大事ではなからうかと思わうわけです。藤井 佐藤さんおっしゃいました美しい熊本づくりが美しい精神をもった熊本県民づくりにもつながるといふことは全く同感でございます。そういう意味でも私も熊本県の経済人が地域開発にあたるということはただ単に利潤だけが開発動機でなくて、美しい熊本づくりをするという価値基準をもって開発にあたりますから、やはりわれわれ熊本県民がリーダーシップのとれるような地域開発をやらなければいけない。そのためにはわれわれももっと勉強しなければいかんと思えますけれども、そうすることが美しい熊本づくりにも一役買うのではないかなと思っております。

有田 さきほど知事がいわれました県民総参加という意味の熊本づくりということが今年の抱負になるのではないかなと思えます。

知事 今年は大変な年だと思いません。だから本当に県民の皆さん方の総意とご協力がなければうまくいくはずはありませんので、どうかよろしくお願いいたします。

杉本 力強くやってください。  
知事 大変有難うございました。

この企画は、さる二月六日RKKテレビの特別番組「県民のひろば」で放送したものを紙上再録したものです。

## 想

## 随

マイナスレコード  
原田昭子

晩秋の一日、山鹿にある県立教育センターを見学する機会に恵まれた。四十七年二月、教職員の研修を主たる目的に設立された同所は、静かな自然に囲まれて、先生方の研修の場にふさわしい。受講者は年間三千三百人という。理科棟、情報処理棟など、目をみはるような教育機器が導入されている。技術科室など教室というより人けのない工場の雰囲気である。音楽室では全国でも珍しい特殊なオルガンを見たあと、マイナスレコードを聴いた。「秋の夕陽に照る山紅葉」の懐かしい歌が流れたが、ボタンの操作で合唱が消え伴奏だけ残ったり、その逆になったりする。「この伴奏に合わせて子供達が唱うこともできません」との説明をきいた。帰宅してこのレコードの話をすると「それで唱えるかな」「何だかつまらない」とわが家の子供達は不満気であった。娘達は小、中学校の合唱クラブにおいて、コンクールにも出たりしてコーラスの喜びも練習のきびしさも、多少なりと味わっている。こどもの清らかなうたごえは私も好きだが機械を相手に練習する姿を想像すると倍しかった。娘達

が指導を受けたA先生は練習のあいまに一諸にゲームをしたり、お正月にはクラブ全員が先生のお宅で遊んだり皆の友情が深まるよう気をつかわれた。中学のB先生はコンクールの前には、食事のことで、大声を出して咽喉を痛めるなど細かい点にも規律正しい生活を要求され、きびしい練習に耐えぬくことの喜びを生徒達に教えられた。合唱員と伴奏者と指揮者とが励まし合って美しいハーモニーを創りあげてゆくことの過程が、コンクールの優劣よりもどんなに素晴らしいことか、音楽とは、教育とはそんな手作りのようなものだと考える。音楽の時間に子供達が唱うとき、先生の伴奏に勝るものはないし、そのための研修とよい条件こそ望ましい。マイナスレコードなるものには少々うとましく思えてきた。そんなある日テレビで民族舞踊をみて考えることがあった。元来これらはみずからの哀愴を素朴な楽器に合わせて舞い唱ったものであるが、文明の利器により抵抗なく茶の間にはいつてきている。時代が進めば教育の方法も変わるだろうし、未来の展望にたつ研修も大切になってくる。然し、機械が高度になる程に大切なものは抜く者の心であり、姿勢であろう。銀色に光る各種の教育機械を見て、ひとりの母親がおぼえた「さむけ」のようなものが杞憂(きゆう)にすぎない未来の教育であってほしいと思う。

千枚田  
規工川 宏輔

このごろ、地域調査のために国土地理院の空中写真を利用する機会が多い。約三、五〇〇メートルの上空から撮影された写真は、一戸の民家、耕地の一筆まで克明にとらえ、地形図では得られない威力を発揮する。空から見下ろす爽快感を、味わいつつ、あれこれ観察していると、地理的好奇心も手伝って、つい道草を食ってしまう。

ところで、私は、水田地帯における開発と水利慣行とのかかわりあいについて若干の研究を進めているが、その中で、急速に姿を消しつつある条里遺構を空中写真を通して見出すのである。

周知のように、条里制は古代における計画的な土地区画で、格子状の整然とした地割は、古代肥後人が自然に働きかけて、その相貌を大きく変えた努力のあとを示すものとして重要な意味をもっている。

たまたま、菊鹿盆地の内田川流域では、広範囲にわたって、しかも比較的明瞭に空中写真から条里遺構をトレースすることが出来た。昭和四十四年撮影のその写真では、耕地の一筆一筆が、さながら